⑩ 日本国特許庁(JP)

① 特許出願公開

# ⑩ 公 開 特 許 公 報 (A) 平1-160286

@Int\_Cl\_4

識別記号

庁内整理番号

匈公開 平成1年(1989)6月23日

H 04 N 7/14

8725-5C

審査請求 未請求 発明の数 1 (全7頁)

②特 願 昭62-319726

②出 願 昭62(1987)12月17日

⑫発 明 者 柏 木 賢 一 神奈川県鎌倉市大船2丁目14番40号 三菱電機株式会社商品研究所内

四発明者三枝一主神奈川県鎌倉市大船2丁目14番40号三菱電機株式会社商

品研究所内

②発明者小松文昭神奈川県鎌倉市大船2丁目14番40号三菱電機株式会社商

品研究所内

⑫発 明 者 樺 沢 昭 史 神奈川県鎌倉市大船2丁目14番40号 三菱電機株式会社商

品研究所内

⑪出 願 人 三菱電機株式会社 東京都千代田区丸の内2丁目2番3号

切代 理 人 并理士 大岩 增雄 外2名

最終頁に続く

明 細 署

1. 発明の名称

静止順テレビ電話装置

2. 特許請求の範囲

(1) テレビカメラによって撮影した静止画を電話回線を用いて、送受する静止画テレビ電話装置において、

テレビカメラと、このテレビカメラで撮影した か止画についてのデータを処理するCPUと、このCPUで得られたデータを選話回線送出用の信 号に変調する変調手段と、この変調された信号を 無線として発信するとともに外部からの無線による信号を受入れる無線送受信部とを備えた移動部 と、

出請回線に接続され、無線送受信部を備えた電 請インタフェース回路部と、

を有することを特徴とする静止画テレビ電話装置。 (2) 上記電話インタフェース部よりに対し複数 の移動部を有し、上記電話インタフェース部より 供給されたコードを上記移動部のCPUが識別し (4)上記移動部はその電源用の電池を内蔵することを特徴とする特許請求の範囲第1項から第3 項いずれかに記載の静止画テレビ電話装置。

3. 発明の詳細な説明

[産業上の利用分野]

この発明は辞止画テレビ電話装置、特に無談語信を利用してその操作性を改善したものに関する 「従来の技術」

電話通信回線を用いて音声と画像とを同時にごるテレビ電話が要別されているが、実際上、現 この電話通信回線では、膨大なデータ量を必要に下

る動態画像を連続的に送受信することが困難であり、静止画像を通話中に担手方に送信する静止画 テレビ電話が実用化されつつある。

この静止画テレビ電話は、通常の音声による通話中に、この通話を一時的に中断して所望の静止画、例えば話者の顔、通話内容に応じた写真画面あるいは絵等を任意に送ることが可能である。

従って、このような静止両テレビ電話によれば 従来不可能であった画像を電話回線によって遊受 信することができ、またその都度一枚のみの静止 画像を送るためにデーク処理量も限られて、テレ ビ電話の実用化を容易に行うことができるという 利点があった。

このような静止画の伝送を行えるテレビ電話は、 倒えば外国通信技術1986年10月号などに示 されている。第3回は、その簡易静止画テレビ電 話機の回路構成圏である。圏において、(1)は 送受話器、(2)はマイクロホン、(3)は音 入出力回路、(4)はアナログ回路、(5)はマ トリクススイッチ、(6)は電話インタフェース

の過信能力があるテレビ電話機であるかを確認するため、能力についてのデータ等を含む I D コードの送出を行う。そして、相手からの I D コード返送を受け、同核の能力を有することを確認した後に画像データの送信を行う。

すなわち、第4図において、キーパッド(9)によって画像送出を指示すると、入出力ポート (10)を介してCPU()!! がこれを検知でして (12)に子め格別では、 (10)を介して (12)に子を変復 間路 (13)の (1

同路、(7) は電話回線接続端子、(8) はスピーカ、(9) はキーバッド、(10) は人出力ポート、(11) はCPU、(12) はプログラムメモリ、(13) は変復調同路、(14) はテレピカメラ、(15) はイメージコントローラ、(16) は画像メモリ、(17) はディスプレイである。

次に、この従来のテレビ電話機の音声と画像信号伝送の動作を第3図から第4図に基づいて説明する。

第3図において、音声による通話は送受話器 (1)またはマイクロホン(2)から音声入出力 回路(3)、アナログ回路(4)、マトリクスス イッチ(5)、電話インターフェース回路(6) を経て電話回線接続端子(7)に送出される。また た、通話相手からの音声信号は上記信号経路と逆 の経路を経て送受話器(1)またはスピーカ(8) で再生される。

ここで、画像信号を送信する場合は、第 5 図に示すように通信相手が同一データ形式画像データ

接続還子(7)に出力される。

なお、画像の送受信が終了して変復調回路(1 3)からのキャリア信号が無くなると、マトリクススイッチ(5)は電話インタフェース回路(6) とアナロア回路(4)を接続して音声による通話 に復用する。

「強明が解釈しまうことも問題点」

このような従来のデレビ電話装置にあっては、 装置は電話回線と接続されており、自由な移動が できないという問題点があった。

この発明は、このような問題点を解決するためになされたものであって、コードレスとして自由 な移動が行える静止両テレビ電話装置を提供する ことを目的とする。

### [問題点を解決するための手段]

#### 【作用】

移動部はテレビカメラ、CPU、変調手段、無 線送受信器を貧しているので、テレビカメラによ

行うものである。

一方、電話インタフェース回路部(200)は 上記移動部側の送信器(19)、受信器(20) に対応した受信器(21)、送信器(22)およ び制御回路(23)を有している。

そこで、電話回線端子(7)から供給された信号は電話インクフェース部(200)の電話インクフェース部(200)の電話インクフェース開路(6)、無線信号送信のための処理を行う調節(23)を介して、この無線はがら無線として発信される。そして、この無線はがら動節(100)の受信器(20)によって受信された信号に変換する制御回路(18)を介しマトリクススイッチ(5)に供給され、従来例と同様に処理される。

また。透微信器(1)等から得られた音声信号。
ジグンジンスイッチ(5)、無線送信を行うた
めの処理を行う制御回路(18)を介し送信器
(19)より発信される。この発信された信号は、

って得た画像を無線信号として発信する。そして、 電話インクフェース部は無線送受信器を有してい るため、移動部から発信された無線を受信し、こ れを電話回線に送出する。

このため、移動部をコードレスとでき、電話回 級とは関係なく自由に移動できる。このため、投 作性を大幅に改善できる。

#### [尖施例]

以下、この発明の一実施例について図面に基づいて説明する。

第1図において、(1)~(17)は、第3位 に示した従来例と同一の構成要素であり、説明を 省略する。

この実施例において特徴的なことは、装置全体が移動部(100)と電話インタフェース回路に (200)に分離されていることである。そして 移動部(100)のマトリクススイッチ(5)は 制御回路(18)を介し送信器(19)および受信器(20)に接続されている。なお、これらは 信器(18)、受信器(19)は無線の送受信を

電話インタフェース部(200)の受信器(2」によって受信され、通常の信号に変換する制御回路(23)、電話インタフェース回路(6)を行て電話回線に送出される。

このように電話インタフェース回路部(20)と移動部(100)が分離されており、無線通信により両者の接続が行われるので、移動部(190)を自由に移動することができ、テレビ電話に置の操作性を大幅に改善することができる。

さらに、この実施例の静止画テレビ電話装算。 おいては、第2図に示すように複数の移動部() 0 1 )、(1 0 2 )、(1 0 3 )を有し、適宜。 限できるようになっている。そして、電話回覧。 適じ監視者は移動部(1 0 1 )~(1 0 3 / 2)。 置きれている個所の画像を得ることができる。

すなわり、監視者は外部の電話機から移動に (1) P 1 1 1 1 1 3 1 のいずれかをあらた。 定められた1 D コードによって指定する。ここ 正は、受信側において指定待ちモードになる。 があり、例えばボーリングスイッチを設け、こ をセットして置いた場合には、外部からの電話に対し、この指定待ちの状態になるようにする。

. そして、この指定符ちの状態で、監視者が移動 部(101)~(103)のいずれかを1Dコー ドで指定すると、この信号は出話インタフェース 部 (200) の送信器 (22) から電波 f 1 とし て発信され、各移動部 (101) ~ (103) の それぞれの受信器(20)に受信される。各移動 部 (101) ~ (103) のそれぞれのCPU (11) は、このIDコードを認識する。そして、 第2図Aの場合は、移動部(101)が自己の1 Dコードであることを認識し、そのCPU (11) が送信器(19)をオンする。そして、移動部 (101) のテレビカメラ (14) によって得ら れた画像が画像信号として、送信器(19)から 信号 f 2 として発信され、電話インタフェース部 (200)を介し監視者に供給される。なお、1 Dコードによって自己が選択されていないことを 温温した移動部(102)。(103)は、その C P U (11) の指示により、逐信器 (19)を

は従来の静止画テレビ電話装置の構成を示すプロック図、第4図は従来のテレビ電話装置の画像伝送子順を示すシーケンス図である。

図において、(1)は送受話器、(1 1)は C P U、(1 4)はテレビカメラ、(1 7)はディスプレイ、(1 9)。(2 2)は送信器、(2 0)。(2 1)は受信器、(1 0 0)は移動部、 (2 0 0)は電話インクフェース回路である。

なお、図中、同一符号は同一、又は相当部分を示す。

代理人 非理士 大 岩 柏 雄 (他 2名)

オフする。また、第2図Bは、1Dコードによって移動部(102)が選択された状態を示している。

このように監視者が電話回線を通じ1Dコードを入力することによって所望のテレビカメラからの画像を得ることができる。なお、移動部(101)~(103)のマイクロホン(2)より音声を得ることもできる。

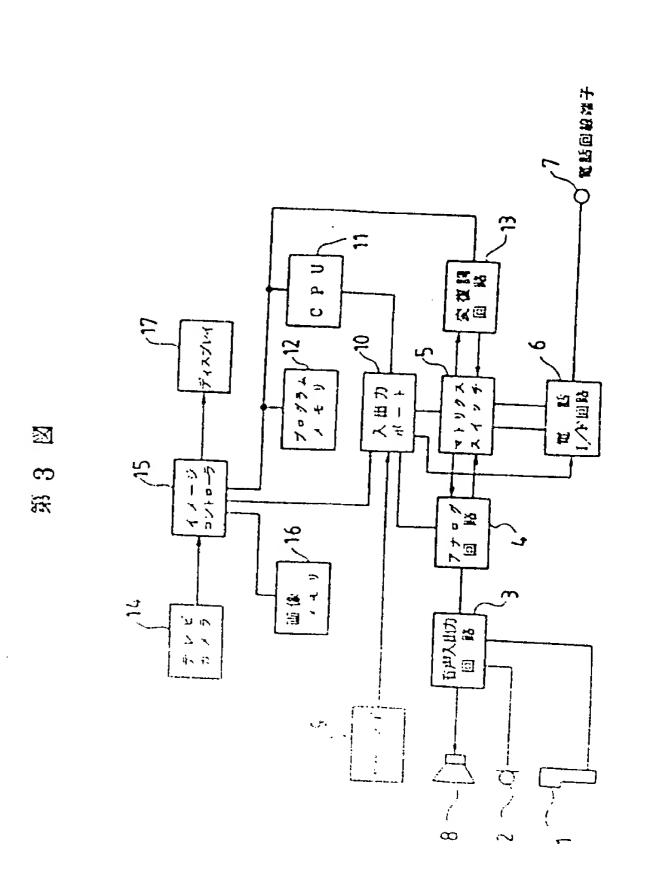
また、移動部(100)に電池を内蔵すれば、 移動部(100)は完全に独立のものとなり、さ らに取扱がしやすくなる。

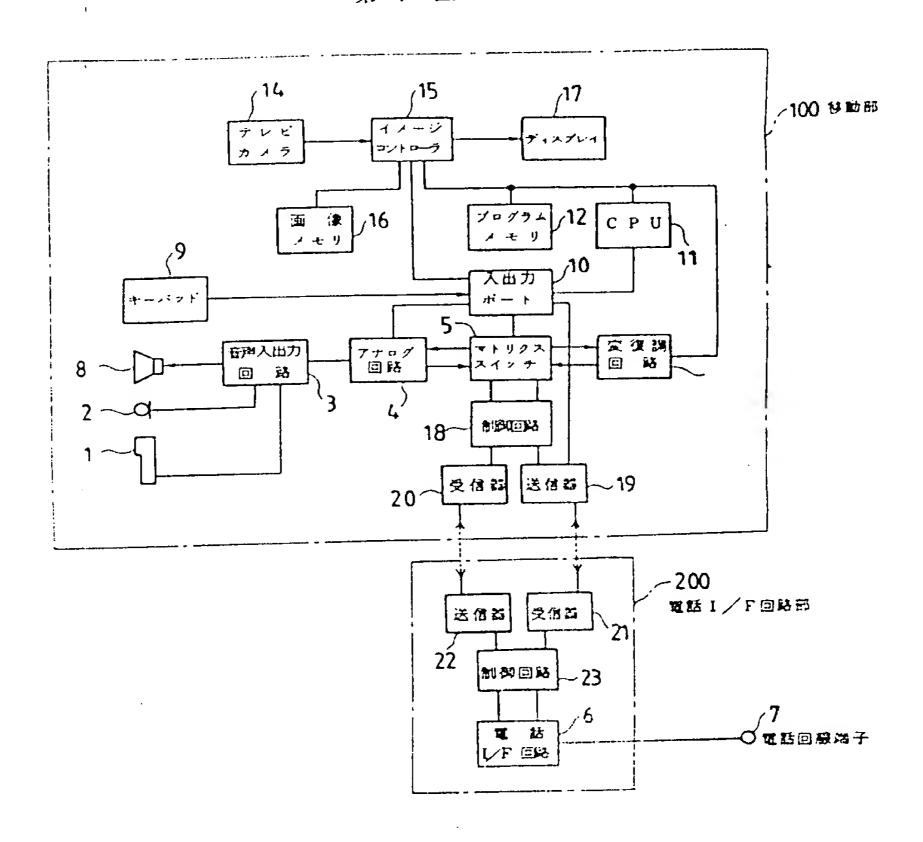
## [発明の効果]

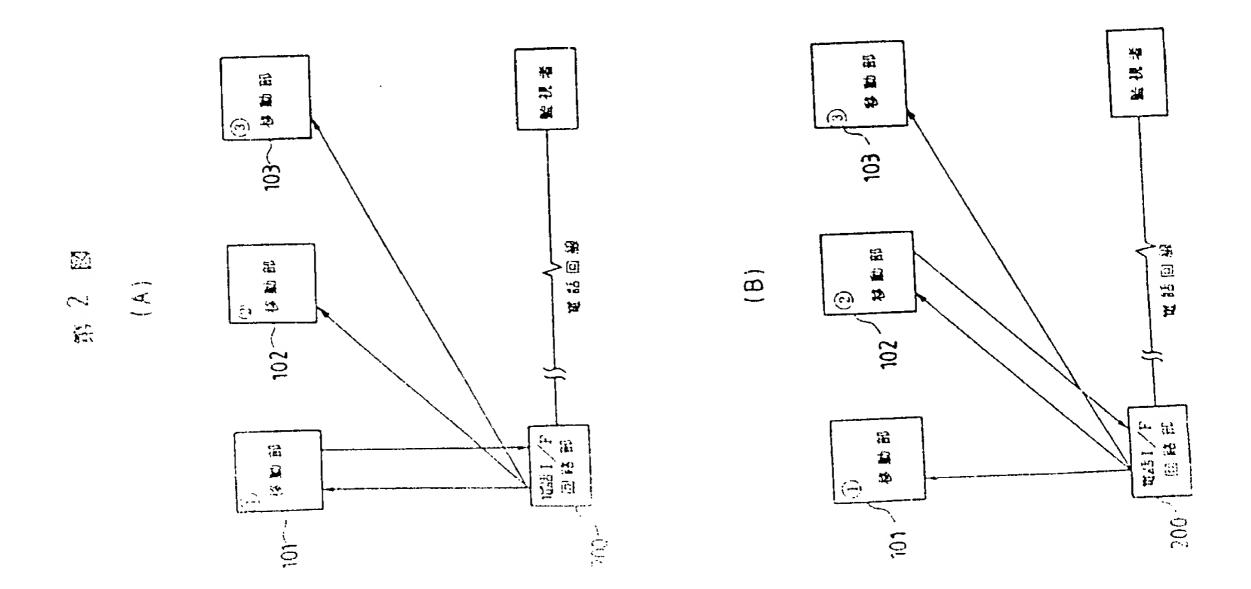
以上のように、この発明に係る静止画テレビ電話装置によれば、テレビカメラを備えた移動部を自由に移動できるので、操作性を大幅に改善できる。

## 4. 図面の簡単な説明

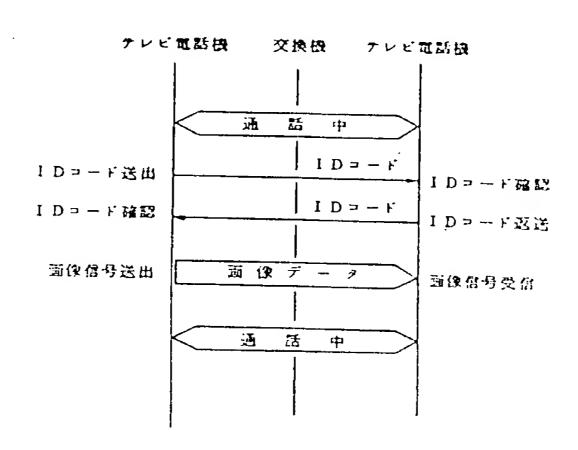
第1図はこの発明に係る静止画テレビ退話装置の全体構成を示すプロック図、第2図は同実施例における移動部の選択状態を示す説明図、第3図







第 4 図



幕1頁の続き					
字発 明 岩	汉	· 湯	生 俟	神奈川県鎌倉市大船2丁目14番40号 品研究所内	三菱電機株式会社商
写発 明 者	芯	島	彦	群馬県新田郡尾島町大字岩松800番地 群馬製作所内	三菱電機株式会社

手 統 補 正 畫 (自発)

昭和 年 月 日 63 (13) 13

特許庁長官数

- 1. 事件の表示 特願昭
- 特質問 62-319726 号
- 2. 発明の名称

静止画テレビ電話装置

3、補正をする者

事件との関係 特許出願人 住 所 東京都千代田区九の内二丁目2番3号 名 称 (601)三菱電機株式会社 代表者 志 岐 守 哉

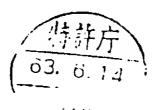
4.代理人

住。所

東京都千代田区九の内二丁目2番3号 三菱電機株式会社内

氏 名 (7375) 弁理士 大 岩 増 雄 (連絡先03(213)3421特許部)





方式 蛋

5. 補正の対象

明知者の発明の詳細な説明の概。

6. 福正の内容

MELMI	補正後の内容
4月19行	
[第5图]	371 4 🖾
511617	
「第422」	<b>30.3 ⊠</b>
9萬16行	
「送受信蓋」	送受話器 以上

-501 -